

れき みる

となん歴史民だより vol.25

Morioka tonan history and folklore museum

平成22年12月21日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 TEL/Fax 019-638-7228



特別企画展報告

馬の歴史と民俗—古文書・絵馬・民具・玩具—

平成22年9月1日～11月3日までの間に804名もの来館者を迎えることができました。

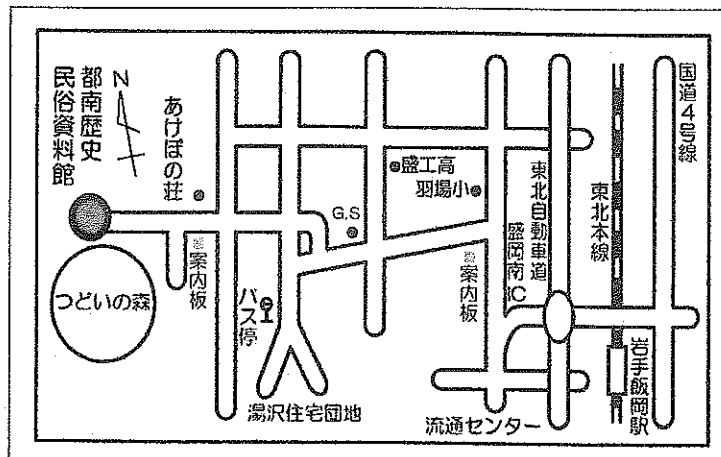
ご協力頂いた山田小八郎様・鎌田隆様には改めて感謝申し上げます。

是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- ・〈収蔵資料解説〉
都南の馬事古文書（その1）
- ・見学を終えて
- ・資料は語る㊤
- ・盛岡市所在
指定・登録文化財紹介㊤
- ・となんの昔ばなし㊤

MAP☆ACCESS



○利用案内

- 開館時間 午前9時から
午後4時まで
- 入館料 無 料
- 休館日 月曜日
(休日に当たるときは、
直近の平日)
年末年始

都南の馬事古文書（その1）

都南歴史民俗資料館

館長 古水 一雄

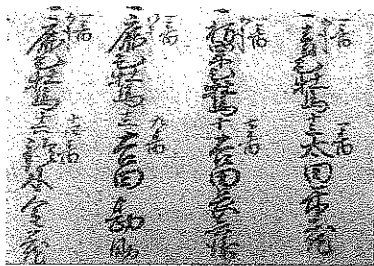
盛岡藩は、古くから広大な山地を背景にして、馬産に力をいれてきており都南地区においても東部の山間地帯、西部の山麓地帯においては馬の生産を、中央平坦地帯は育成を主に生産がなされていました。

馬産が藩の重要な産業となっていたこともあり、村役人や五人組の制度であった郷村制がしかれていた時期には、農村で飼育される馬については厳しい検査が行われていました。

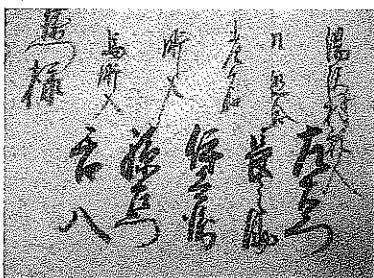
村には馬肝入りという馬事一切の事務を行う役人（写真①）をおき、馬の売買・出産・死亡の届出から博労の監督まで行わせていました。

そして、総馬改めといって馬の年齢・毛色・性・体格などを検査し記録もしていたのです。（写真②）盛岡藩の「邦内郷村誌」によると都南村（旧飯岡村・見前村・乙部村）の総戸数 1005 戸に対し馬数 1475 頭を数え、一戸あたりの飼育数 1.5 頭となっていて、その飼育が盛んであったことがわかります。

なかには、次の古文書のように一戸で9頭も飼育する豪農もみられているのです。



（写真①）馬帳・部分



（写真②）馬肝入

＜釈文＞

乍恐口上書を以奉願上候事

私儀数代、御所に罷在御田畑工作仕、高百石程所得仕候。然処去る八月七日夜、私家、馬屋、小屋共に焼失、急火の事故、家財、農業道具等迄不残焼失仕、其上馬九疋御座候内七疋焼殺申候（以下略）

＜読み下し文＞

恐れ乍ら口上書を以て願ひ上げ奉り候事

私は乙部村石高百石程の収穫をしているものですが、去年の8月7日夜家屋・馬屋・小屋全て焼失いたしました。火の勢いが速く家財も農具も残らず焼け、その上9疋もいた馬の内7疋も焼け死んでしまいました。

この古文書の書かれたのは、宝暦8年（1759）のことです。願ひ出た人物は乙部村に在住の「長之丞」という農民です。火事と凶作によって持っている米は全て食べ尽くし、来春田圃に播く種たねもみ粉もないので貸し付けてほしいことを願ひ出たものです。

宝暦といえば江戸時代中期にあたりますが、すでにこの頃からこの地域では馬産が盛んであったことがわかります。

しかし、その飼育にあたって問題なのは、馬を飼育するための飼い葉の確保でした。特に東西見前村は山林原野がほとんどないため、遠くの秣まぐさば場（採草地）まで出かけなければならず、東は川目や藪川、北は厨川・西根・松尾といったところの入会地まで足を伸ばして運んできています。

運搬にあたっては船を使っていたことがわかっていますが、そのための馬船や船着き場やの整備が必要でした。残っている古文書を見ると、馬船は「長さが9間（約16間）横幅8尺5寸（約2.5間）で荷附馬8疋立」とありますから、相当大きなものであったことがわかります。東見前村には大桜前に渡船場が設けられていました。馬船も渡船場も役所の許可を得て村費によって造ることになっていましたので、その負担もまたたいへんなものであったと思います。（この稿次回に続く）

📖見学を終えて📖

毎年9月から10月にかけて小学生の皆さんが社会科見学で当館に訪れ感想をよせてくれます。今年も多くの子が来館し見学した感想を送ってくれました。ここでは、その一部をご紹介します。

●1番すごいと思ったのは蠅取り器です。真ん中の空洞に餌を仕掛け、中に石けん水を入れフタをすると飛び立つ時に容器の内側にぶつかって石けん水の中に落ちるといった仕組みがすごかったです。

(青山小学校 4年生)

●テレビで見たり本でみたりしたことはあるけど、昔のものを生で見たのは初めてでした。

(星山小学校 4年生)

●昔の冷蔵庫は氷を入れて冷やしていることを初めて知りました。(手代森小学校 4年生)

●アイロンは炭を入れて使っていたことや石臼がどのようになっているか知る事ができました。

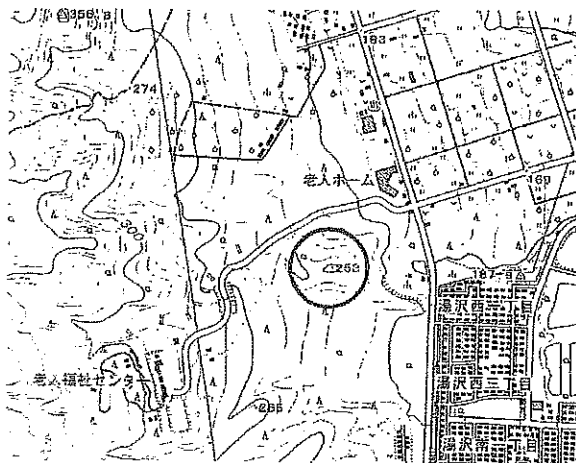
(城北小学校 4年生)

ときにはこんな叱咤激励も…

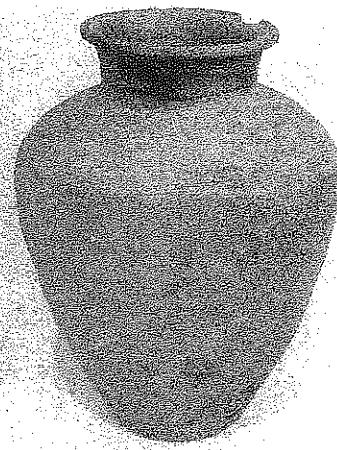
●資料館の皆さんも昔の道具がなくなってしまうように手入れなどをしっかりと、未来も昔の道具が見る事が出来るように頑張ってください。(城南小学校 4年生)

本当にたくさんの感想を頂きました。ありがとうございます。今年度、社会科見学で来館頂いた小学校は手代森小学校・見前小学校・青山小学校・城北小学校・城南小学校・星山小学校です。このほかにも親子会などで小学校のご利用がありました。

資料は語る②



位置図

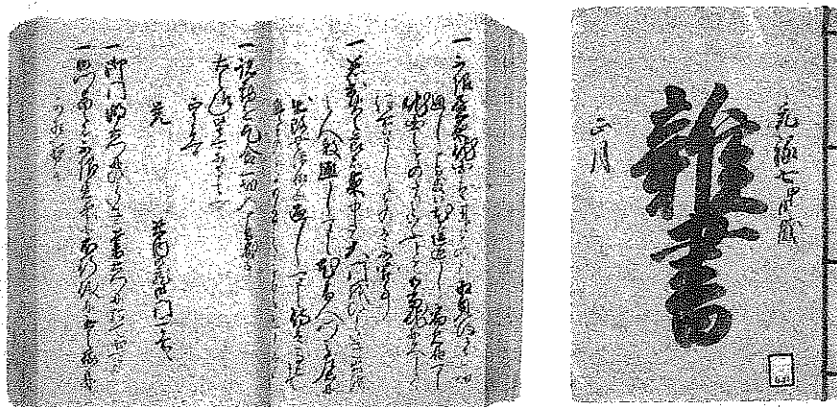


常滑二筋文壺

盛岡市湯沢の赤林山山麓にある遺跡で東に張り出した尾根上にある湯壺経塚から出土したものです。出土地点や出土状況および経塚の詳細は不明確です。12世紀後半の常滑二筋文壺でほぼ完全な形を残しています。赤褐色に焼かれ胴部には二筋の平行沈線文があり、口縁部から肩部にかけて自然釉がかかっています。

二筋文は全国的に見て珍しく、一般的には三筋文だということです。今年の9月には愛知県史編纂室考古部会が調査に訪れました。

参考：盛岡市遺跡の学び館『岩手・斯波の平泉文化』2008。



盛岡藩雑書 189冊

盛岡藩家老の執務日誌で「南部家雑書」、あるいは「盛岡藩家老席日誌」とも呼ばれるものです。収録年代は寛永21年（正保元年・1644）から天保11年（1840）にわたり、欠落している年次もあるものの197年間を189冊に収めています。記述の形式は、日付の下にその日の天候と当番の家老が3人前後列記され、続いて本文が記載されます。内容は、領内の農業・林業・漁業・鉱業をはじめ法制・宗教・民俗といった社会事象など多岐にわたります。

現在、資料は中央公民館に保管されていますが、平成23年7月には雑書も含め収蔵資料は「もりおか歴史文化館」へ移管されます。このため11月29日より収蔵資料の閲覧・撮影・貸出が中止されています。これらの資料を見ることができるのは約半年後となります。

参考・引用資料：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』、2008。

となんの昔ばなし二十五

『湯沢温泉と雀神社』

湯沢に温泉が湧き、湯治客で賑わっていた頃の事です。

湯治客のひとりの金子きんすがなくなっていました。湯治場には巫女がおり、巫女には放蕩息子がおりました。その息子に疑いかかってしまい、巫女は温泉があつたばかりに自分の息子に疑いがかかったと怨み、毎晩、湯を汲み取り繫に運ぶようになりました。そのため山の向こうの繫には温泉が湧くようになり、湯沢の温泉は枯れてしまいました。

また、巫女は臨終に際して一生の濡れ衣を着せた湯沢村の人々を七代まで呪うと言って呪文を唱えます。すると、たちまち巫女は、無数の片目の雀の大群となり飛び立ってしまいました。それからというもの、毎年その片目の雀の大群が物をあらすようになりました。村人達は巫女の祟りをなだめるために神社を造り祀りました。それが現在もある雀神社だそうです。

出典 都南歴史民俗資料館『となんの民話』、都南村、一九八五。